

分担研究報告

「化学テロ対応に関する研究」

研究分担者 水谷 太郎
(茨城県西部医療機構 理事長)

令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)
「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会等に向けた包括的な CBRNE テロ対応能力構築のための研究」

分担研究報告書
「化学テロ対応に関する研究」

研究分担者 水谷太郎（茨城県西部医療機構・理事長）

研究要旨

第4世代神経剤(FGA)に関し、物性、中毒時の病態、治療方針等を中心に、現時点における適切な方略および手法を検討した。

FGA 中毒は他の神経剤と比べ、物性、発症様式等に相違があり、患者は長期に及ぶ薬物治療と集中的な支持療法を必要とする可能性があるため、多数傷病者が発生した場合、地域の医療現場に重大な負荷を与える可能性がある。

研究協力者

日本中毒情報センター 奥村 徹
同 高野博徳

物実験において FGA 中毒の顕著な所見であるが、数少ないヒト事例では観察されていない。

皮膚および毛髪を除染が重要である。剤が液体の場合、早期が望ましいが曝露から数時間から数日後であっても除染には臨床的意義がある。

A 研究目的

化学テロ対応に関する現時点での適切な方略および手法の確立。

D 考察

FGA 中毒は他の神経剤と比べ、物性、発症様式等に相違があり、患者は長期に及ぶ薬物治療と集中的な支持療法を必要とする可能性がある。

また、FGA は持続性の毒物であり除染を行わなければ、数日から数ヶ月、環境表面に残存する可能性がある。更なる FGA への曝露を防ぐために、環境表面の除染が必須である。

B 研究方法

現在、国際的な関心事である化学兵器、特に第4世代神経剤(FGA)に関する情報は不足している。本剤の物性、中毒時の病態、治療方針等に関する情報を中心に収集、整理、検討し、現時点における適切な方略および手法を検討する。

なお、本研究は、主として公表されている文献調査に基づき実施されたものであり、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）」の対象には該当しない。

E 結論

FGA 中毒は、多数の傷病者が発生した場合、地域の医療現場に重大な負荷を与える可能性があるため特段の注意が必要である。

C 研究成果

FGA は揮発性が低いので液体として遭遇する可能性が高い。皮膚接触から症状出現までの時間は長く3日を要することがある。吸入、経口摂取、広範な皮膚接触の場合、症状は早期に出現する。皮膚および毛髪を除染が重要である。痙攣は、動

F. 健康危険情報

G. 研究発表

準備中

H. 知的財産権の出願・登録状況